

令和4年度農作物病虫害発生予察技術資料第2号

令和4年(2022年)7月20日
山口県病虫害防除所

野菜・花き類のシロイチモジヨトウの発生状況と防除対策

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が急増しています(図1)。今後、本虫の幼虫による被害の発生が懸念されますので、防除対策の徹底をお願いします。

1 発生状況と今後の予測

- (1) 山口市大内のフェロモントラップによる6月19日から7月18日までの誘殺数は、68頭(平年16.6頭)で平年に比べ多かった(図2)。
- (2) 福岡管区气象台発表(7月14日)の1か月予報では、気温は高いとされ、本虫の活動に好適な気候が続くと考えられる。
また、本虫の幼虫によりネギ、キャベツ、ナス、キュウリ等の野菜類やカーネーション、キク等の花き類で被害が増加することが懸念される。

2 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、卵塊や被害部位(茎葉、花蕾、果実)等は見つけ次第除去するとともに適切に処分する。
- (2) 防除適期(若齢幼虫期)に、薬剤散布を実施する。
- (3) 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。
- (4) 防除薬剤は、農作物病虫害・雑草防除指導基準を参考に選定する。
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

3 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤散布後には効果をよく確認し、被害の拡大が認められる場合には、追加防除を実施する。
- (2) 薬剤抵抗性を発達させないため、IRACコードを考慮し、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) 薬剤散布の際には、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止するとともにミツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意する。

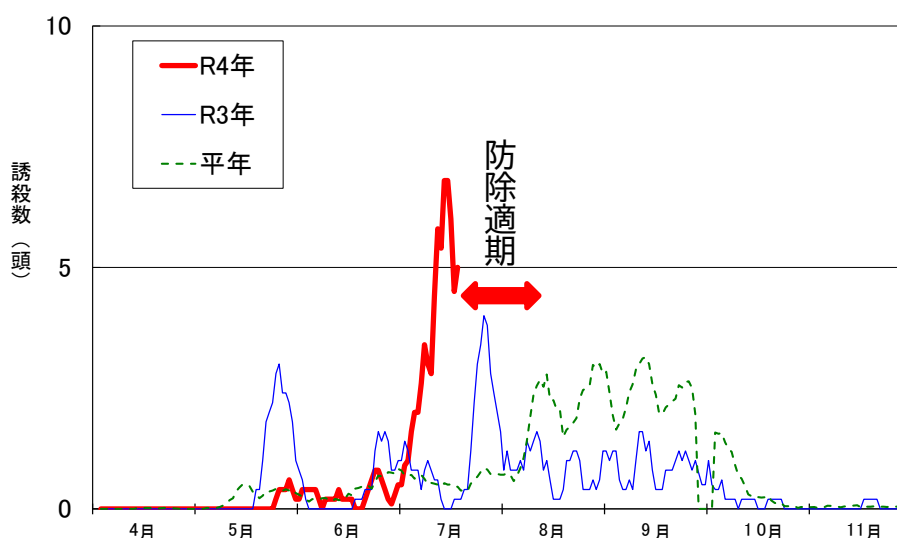


図1 シロイチモジヨトウの誘殺数の推移(山口市大内)

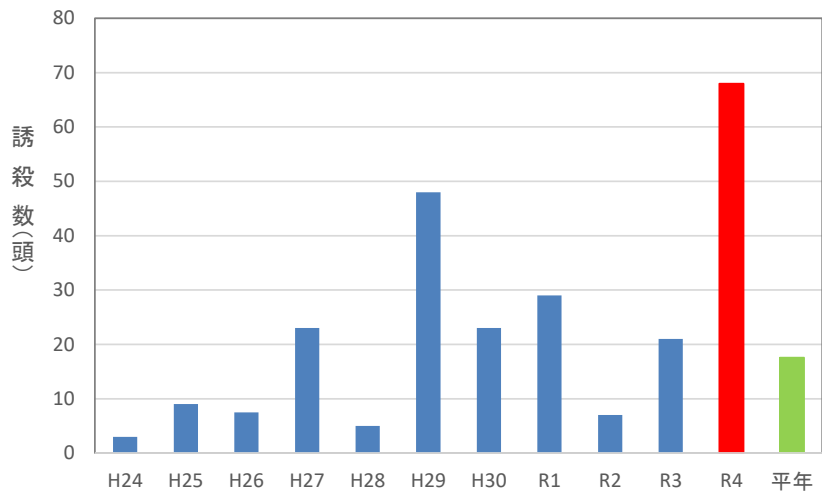


図2 シロイチモジヨトウの誘殺数の年次比較
(山口市大内：6/19～7/18 合計)



写真1 シロイチモジヨトウの卵塊



写真2 シロイチモジヨトウの老齢幼虫
(体長3 cm 程度)



写真3 シロイチモジヨトウによるネギの被害
(内側を食害されている)